



日本共産党  
市議会議員団  
週刊議会報告  
【発行】  
魚谷さとる  
(0848-22-2810)  
岡野長寿  
(0845-22-2596)

# 共産党市議団、市内各地で市政報告会開催

## —魚谷・岡野・三浦の各氏が実績・政策・決意を熱く—



豪雨災害で道路が崩落、溝も破壊

### 岡野長寿市議は田熊公民館で

1月26日岡野長寿市議は田熊公民館の公民館大講堂で「市政報告会」を開きました。

最初に4年間の活動実績を写真映像で報告、「子ども医療費助成を中3まで」「橋代軽減を」看板に掲げた宣伝カーの写真や因島南小開校に合うように設置された信号機工事の様子が紹介されました。

また岡野市議が向島の渋滞問題の解消のため、①尾道大橋の二番湯交差点の改良や②向東のフェリー航路復活、③橋代軽減の3本柱の政策を訴えている活動が紹介され、参加者は「因島だけでなく、向島や瀬戸田など広域に活動していることがよくわかった」と感想が寄せられました。

岡野市議は市政報告会開催の活動を通して、様々な住民要求



総合支所前のひび割れた幹線道路

が山積していることが認識できた。予算議会などを通して住民要求実現に全力で取り組むたいと語っています。

同市議が受けた要望の中には、上写真のように豪雨災害で道路が破壊され日常生活に支障が生じているのに、未だ復旧の見通しが立たない道路や右写真のように車が通るたびに家が揺れる幹線道路のひび割れが放置されているなど、市役所の力が及んでいない箇所が多数見られ、同市議は「職員を減らしたと市長は自慢しているが、必要な技術系の職員が多数減らされ市役所の力が落ちているのではないかと、あるいは生活の視点から予算組をする観点で欠落しているのではないかと」と危惧を表明し、予算議会などで、この点を質したいと語っています。

### 市民に頼りにされる議員として

#### 『重病で入院したけれど保険証がない』

日本共産党市議団は議会活動とともに、「市民に頼りにされる議員」、「市民の良き相談相手」との立場で活動してきました。そこで、最近寄せられた相談のひとつを紹介いたします。

魚谷さとる市議の元へ「息子が意識不明の重病で入院したけれど、保険証がないのでどうしたらいいの？」との相談が同居している母親から。

話を聞くと、50代の息子さんは大阪の大手電機メーカーの子会社へ勤務していたが、10年以上も前に会社を辞めて尾道に帰ってきて、数年前から母親と兄弟が同居しているところへ移ってきたとのことでした。

国保証を発行してもらうためには、尾道市民でなくてはならず、本人の意識がないため大阪から住所を移動しているかを確認する必要がある、とりあえず市民課で確認することに。母親と一緒に市民課で確認すると、住民台帳では母親の住所ではなく別の住所になっていることが判りました。国保課で

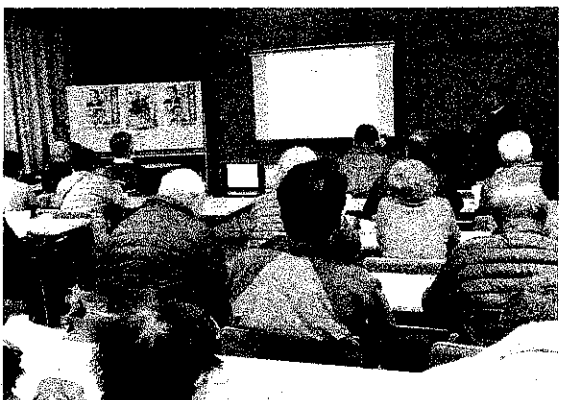
は、現住所でないと保険証の発行は難しいとのことなので、市民課で異動届を提出し、住所を現在のところに変えて、保険証の発行をと国保課へ。すると、保険証を発行するためには以前勤めていた会社の「保険喪失証明書」が必要になるとのことでした。

金曜日の午後3時頃国保課から、もし不幸にも本人が亡くなったら保険証の発行はできないとの連絡がありました。魚谷市議は急がなければと、以前の勤務先の「社員証」の番号に連絡しましたが、「現在使われていません」と。

インターネットで大手電機メーカーの関連会社の中に、以前の会社の業務を引き継いでいる会社があることがわかり、事情を話して「喪失証明」をフアクスしてもらえらるようになりました。家族の方と連絡を取って、「喪失証明」を持って市役所に着いたのが午後5時を過ぎていました。無事、国保証の発行と一定額以上の医療費を払わなくて済む手続きも完了し、ひと安心しました。

### 魚谷市議・三浦対策委員長は美ノ郷町の「才原なごみ館」で

2日午後からは、美ノ郷町の「才原なごみ館」で「市政報告会」が地元共産党美ノ郷支部の主催で開催され、魚谷さとる市議、三浦とおる市議、谷さとる市議、三浦とおる市議ら、教育対策委員長の話に会場いっぱい参加者は耳を傾けていました。



会場いっぱいの「報告会」参加者

最初に報告に立った三浦とおる対策委員長は、冒頭、市議会議員選挙に出るに至ったこれまでの経過や気持ち、故寺本真一市議の意志、今期で勇退する魚谷さとる市議の跡を引き継いで頑張りたいと決意を表明しました。

続いて、議会に出てやりたいことについて、①国民健康保険料の1世帯1万円の引き下げ、②子どもの医療費助成制

その後、自身の経験も踏まえながら、議員の役割は良くないことには反対して『行政をチェック』すること、議会に届けることであると、市政報告を行いました。